キャラクター名

イリス

プレイヤー名

ポジション	ジャンク	**享年**	15歳
メインクラス	バロック	**暗示**	陥穽
サブクラス	バロック	**寵愛点**	38

初期配置	煉獄
最大行動値	10

能力値	クラス	修正	合計
武装	0	0	0
変異	4	4	8
改造	0	0	0

記憶のカケラ	内容
双子	同じ顔、同じ声、私には双子の姉妹がいた。どんな時も側にいて、どんな事も分け合った。そう、あの時も…
繋いだ手	身を寄せ合い、手を繋ぐ。暖かな体温。とても静かで穏やかな幸福。今は空っぽの手。伸ばしてみようか…？
みんな	普通の子は、「お母さん」と「お父さん」がいて、こんにちわにさようなら言い合った。でも私の周囲にっただろうか？ 仲良くしてくれる友達と、私にかけてくれる先生と、私のすっと一緒にいた大切な人。自分は十分に幸せだった。
懺悔	先生が言っていた、"あの子たち"を動けたってこと。先生は謝っていた、"あなたたち"に何ってやれなくて。アイラは言ってるのが分かった。アイラは言ってるのが分かった。どうにかは聞けてしまったから、どうにかは聞いてしまったから。だから、だから、手ちゃんと"ごめんなさい"ってやっとかから。だって私は、悪くない。だって私は、悪くない。だって私は、悪くない。
再会	先生が、大切な友達たちを連れてきてくれた。でもその時間は、あっという間に消えていて、まず、行方をくらませた友達の最期が見せられていく。爆風に晒されて、私の目の前で消滅した姉。友達の目の前で消滅した友達。目を背けてしまいたくなる。でも、目を背けてはいけないって、これは、これは、これは